

第284号

平成26年

4月23日

すまいるたん



発行元
東京新聞
南千住専売所
Tel.3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
Tel.090-2657-0300

文字を描く 江戸手描提灯

大嶋屋提灯店

素盞雄神社の大きな提灯をご覧になったことがありますか。大嶋屋提灯店の提灯です。

大嶋屋提灯店は明治30年(1897)に初代の石井作次郎さんが20歳で創業されました。

現在は東京提灯業組合の組合長もされている3代目の石井一郎さん(65歳)が字を描いています。都内の提灯店は減って30数店しかありません。

一郎さんは、20歳から提灯に字を書いて来ました。本はないので、お父さんや他の方の描く文字を見て覚えていきました。文字は書くのではなく、デッサンして描いていきます。

寄席で描かれる字が寄席文字と言われるように提灯に描かれる文字は江戸文字です。江戸文字は、男らしい江戸っ子らしい文字です。本来は、はねない所をはねたり、かっこよく描かれます。また、半天に書かれる半天文字に比べ、字の隙間の白い部分を出すように工夫されています。

提灯は、まず面相という細い筆で文字

の枠をとっていきます。この作業を素書きと言います。その後、塗り込みという作業に入ります。丸筆や平筆や刷毛で文字の中を塗っていきます。文字を整えて文字は完成します。

一文字の上や左を搔いたらその都度乾かすので一文字が仕上がるには時間がかかります。和紙がにじまないように夏冬の湿度の差にもよって作業の手間も変わってきます。文字が乾いたら、提灯の表面の祈り目が竹ひごの内に来るようにもう一度たたみ、重化(じゅうけ)という提灯の上下の部品や手で持つ部分を取付ます。飾りを使う提灯は、そのままですが、外で使用する祭提灯などは防水のために全体に油を塗ります。

提灯は形や長さによって、ミニ3号・長弓張り提灯・八丸弓張り提灯・手丸弓張り提灯・高張提灯・大張り提灯と色々あります。

「明治から続いた店を絶やさない」

一郎さんの息子さんの達也さんが4代目として大嶋屋提灯店を引き継いで行くことになりました。

15年位前に一度、取材させて頂いたことがあるのですが、その時に当時の「南千住まいたん」を持ってお客様が注文

に来られたこともあるそうです。

お値段は3千円からございます。

お盆のお迎え用や子供の命名記念、七五三や還暦お祝いにプレゼントされるのは、いかがでしょうか。



大嶋屋提灯店

☎ (3806) 4789

FAX (3801) 4789

南千住5-7-2 (コッ通り)

営業時間：AM8時～PM6時